

教科に関する調査の設問別の分析結果

平成21年度 「基礎・基本」定着状況調査の分析結果 中学校国語 五

【出題の趣旨】

- ・ 表現に注意しながら文章を読み比べ、適切な意見文を選び、自分の意見を明確にし、意見を支える適切な理由を書くことができるかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

- ・ B 書くこと（第2学年）
 - ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

五 田中さんのクラスでは敬語の使い方について話し合いました。「敬語は口から使つべきだ」「敬語は改まった場面だけで使えばよい」という二つの意見がありました。そこで、どちらがよいかについて意見文を書くことにしました。

次のアとイの二つの文章は、どちらも「敬語は口から使つべきだ」という主張をしている意見文ですが、どちらの文章が意見文として適切でしょうか。アとイを読み比べて、【注意】にしたがって書きなさい。

【注意】
題名は書かずに、本文から書き始めること。
アとイのどちらがよいかを書いた後に理由を書くこと。

理由は二つ以上書くこと。
理由はアとイを比べた内容にすること。

適切な段落を設けて書くこと。

一六〇字以上二一〇字以内に
まとめて書くこと。

適切な理由を【注意】にしたがって書くことができるかどうか。

正答率	平成21年度	解答類型	1	2	3	4	5	6	7	左記以外	無解答
本校	23.3%	本校の割合 (%)	17.2%	6.1%	17.8%	5.0%	10.0%	11.1%	9.4%	9.4%	13.9%
広島県	56.9%										

この問題を解くために必要な力

- 二つの文章の違いを読み取ることができること。
- 二つの文章を読み比べ、適切な意見文を選ぶことができること。
- 選んだ意見文が適切である理由を、【注意】にしたがって記述すること。

誤答分析

解答類型3は、アとイを比較した理由を二つ書いているが一つしか合っていない生徒の割合である。これは、【注意】の内容を読み取っているものの、適切な理由をもう一つ記述することができなかった生徒の割合である。

解答類型4, 5, 6は、アとイを比較して書いていないものや、理由が一つしかないもの、説明不足の生徒の割合である。これは、【注意】の内容を読み取っていないか、または適切な理由が記述できなかった生徒の割合である。

解答類型7は問題文を読み間違えている生徒の割合である。適切な意見文を選ぶのではなく、自分自身の敬語についての意見を述べている生徒の割合である。

無解答の生徒の割合が13.9%である。

この問題は、四つの観点から採点されている。

一つめは「記述の量」である。これについては、正答率が79.4%であった。二つめは「構成」である。これについては、正答率が76.1%であった。三つめは「理由の述べ方」で、ナンバリングや適切な接続詞を使っているかどうかである。これについては、正答率が73.9%であった。

四つめが、上記に取り上げてある「適切な理由」である。これについては、解答類型1, 2を合計した正答率が23.3%と、他の観点と比べると著しく低い割合である。広島県の平均が56.9%、尾道市の平均が52.5%であり、比べてみても、その低さは顕著である。

以上のことから、問題の【注意】の内容の中でも、文章を書くための「型」については概ね理解しているものの、内容を比較し、適切な理由を記述することに課題があると考えられる。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

平成21年度 「基礎・基本」定着状況調査の分析結果 中学校国語 五

【単元名】事実と意見 「モアイは語る」(第2学年)

調査結果からみる課題

【課題となる力】

二つの文章を読み比べ、違いを説明する文章を書くこと。

【指導上の課題】

説明文において、読み取ってはいるものの、自分の言葉で説明することに課題がある。同じような内容の説明的な文章を比較する機会も少なく、その違いをただ単に文章を引用するだけでなく、自分の言葉で説明することに課題がある。

書くことに苦手意識があり、無解答の生徒への支援も課題である。

指導改善のポイント

二つの文章を比較し、「自分はどちらがわかりやすいかと思うか」を説明する文章を書かせる。

【指導の工夫】

説明文の基本的な形、構成を「イースター島にはなぜ森林がないのか」と「モアイは語る」の内容に即して比較させながら教える。

「イースター島にはなぜ森林がないのか」と「モアイは語る」の島が滅んだ原因に対する考え方や、結論へのアプローチの仕方の違いについて考えさせる。

同じ点と異なる点に着目させ、それぞれの説明文のどちらが好きか、根拠をもとに説明させる。

二つの教材の同じ点と異なる点を整理させる。

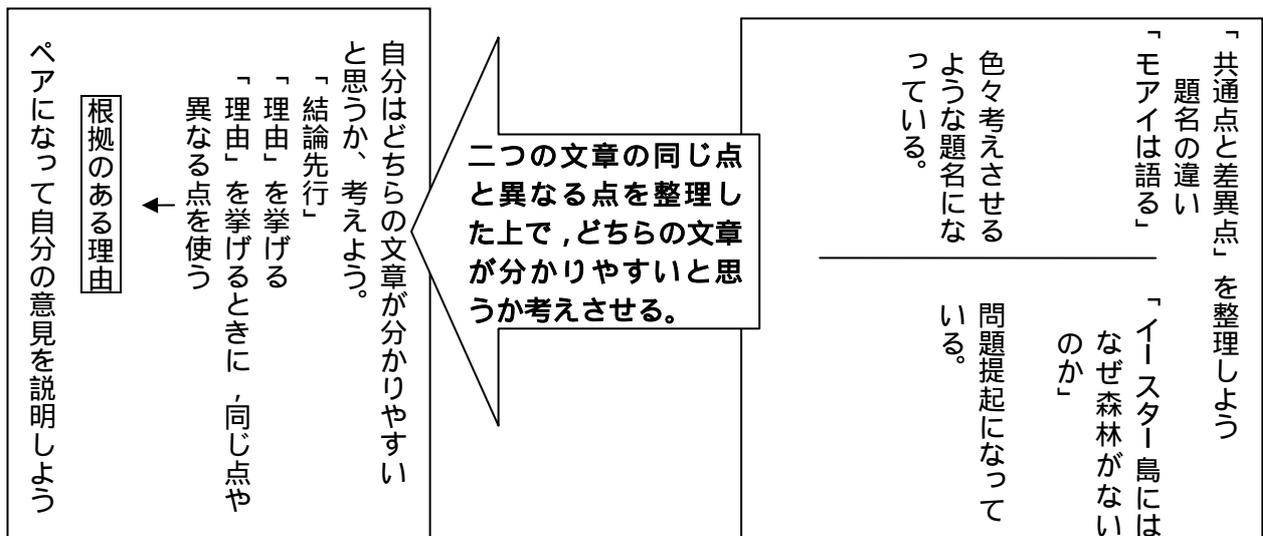
二つの教材の同じ点と異なる点を整理する。

文章を引用したり、説明を加えたり、抽象的な言葉に言い換えたりして、同じ点と異なる点を整理する。

どちらの文章がわかりやすいと思うか、理由を挙げて説明させる。

言語技術により「結論先行」「理由」の順で記述させる。

同じ点や異なる点を比較させ、説明を加え、根拠のある理由にさせる。



ペアになり、自分の意見を発表する。説得力があったか、反論はないか、お互いに評価し合う。

(1) 指導内容・指導方法について

筆者の意見を明確にとらえるだけでなく、どのように根拠を示すか、どのように構成するかなどを発展的に学習させる。また、「C 読むこと」の指導と関連させ、「B 書くこと」の指導をすることにより、読みを深めさせる。

さらに、「イースター島にはなぜ森林がないのか」と比較することにより、筆者による文章構成や結論の深さに気づき、読みをさらに深めさせる。

文章を比較して読む学習の機会は今までにほとんどない。複数の教材を読み比べることによって、より多面的に教材を評価させ、自らの客観的な視野からの深い読みができるよう指導したい。

ステップ1 「モアイは語る」について理解させる

↓ 根拠となる事実を見いだした手順、その事実が物語っていたもの、現在に投げかけている問題、全体の構成をとらえさせる。

ステップ2 「イースター島にはなぜ森林がないのか」について理解させる

↓ 根拠となる事実を見いだした手順、その事実が物語っていたもの、現在に投げかけている問題、全体の構成をとらえさせる。

ステップ3 二つの文章の同じ点や異なる点を見つける

↓ 二つの文章の同じ点や異なる点を見つけ、多面的に教材をとらえさせる。

ステップ4 同じ点や異なる点を見つけた上で自分はどちらの文章が分かりやすいと思うか考えさせる

整理した同じ点と異なる点から自分はどちらの文章が分かりやすいと思うか考えさせる。相手に効果的に伝わる様に、「結論先行」「理由や根拠を明らかにする」などの言語技術を活用したわかりやすい文章を記述させる。

(2) 「ことばの教育」との関連について

思考力・判断力・表現力などの育成のために重要かつ不可欠な学習活動との関連について情報を分析・評価し、論述する

..... 事柄を比較するという考えるための視点を活用

「言語技術」を活用した指導を通して、生徒に身につけたい力は次の通りである。

結論先行 理由の順で根拠を明確にして記述する場面

..... 「結論先行」で自分の意見を明確にし、「理由」や「根拠」を明らかにして書く技術

(3) 新学習指導要領との関連について

新学習指導要領の第2学年「B 書くこと」の言語活動例においては「イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。」、解説においては「読むことの指導と関連させて、説明的な文章における筆者の意見や論の進め方、(中略)などを取り上げることも考えられる。」と示してある。書くためには、どのように書くかを「C 読むこと」と関連させて学ぶ必要があると解釈できる。よって本教材において、「C 読むこと」の指導を中心に、「B 書くこと」を取り入れ、「立場を決めて意見を述べる文章を書く」言語活動を行うことにより、「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」ができるよう指導する。

中学校第2学年 国語科学習指導案

【単元名】事実と意見 「モアイは語る」

単元観について

本単元は学習指導要領（平成20年3月）の「B 書くこと」（第2学年）の「ウ 事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。」を受けるものである。

本単元「事実と意見」（教材名「モアイは語る」）では，根拠となる事実を見いだした手順，その事実が物語っていたもの，現在に投げかけている問題，それらを分かりやすい文章構成で述べている。文章のまとまりに着目して内容をとらえ，筆者の考えを読み取る学習をさせたい。また，意見を明確にとらえるだけでなく，どのように根拠を示すか，どのように構成するかなどを発展的に学習させ，読みを深めさせる。

その発展的な学習として，既習である小学校6年の教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」と比較させる。教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」は「モアイは語る」と同じような結論であるが，論への導き方や展開などが異なり，二つの教材は比較しやすい教材である。そのため，二つの教材の違いを説明する際に，具体例を加えたり，描写を工夫したりしやすく，「B 書くこと」の指導事項である「ウ 事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。」に適した教材である。

その手段として，学習指導要領（平成20年3月）「B 書くこと」言語活動例の「イ 多様な考えができる事柄について立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。」を活用する。この指導事項の解説においては「読むことの指導と関連させて，説明的な文章における筆者の意見や論の進め方，（中略）などを取り上げること考えられる。」と示されている。「C 読むこと」と関連させ，筆者の意見や論の進め方を理解させるとともに，二つの教材の異なる点を述べる文章を書かせ，意見が効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりするよう指導する。

生徒観について

本学級の生徒は，元気で発言の多い生徒もいるが，なかなか発言の出ない生徒もあり，個性が豊かな集団である。発表や音読の際，挙手をする生徒も多く，意欲的に学習する一面もあり，人の気持ちが理解できる生徒も多いので，文学的文章において，登場人物の心情を読み取ったりすることは得意である。しかし，理由を聞くと「なんとなく」と答える生徒も多い。そのため，「なんとなく」を文章中の言葉を引用し，説明するよう指導してきた。しかし，自分の言葉に言い換えて説明することには課題があり，また，書くことに関しても苦手意識があり，全く書くことができない生徒もいる。

平成21年度の「基礎・基本」定着状況調査の「生活と学習に関する調査」では，「自分の考えや意見を具体的な例をあげ，順序に気をつけながら話しています。」という質問に対して，「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と否定的に答えた生徒は51.1%いる。また，「相手や目的に応じた話し方をしています」の肯定的回答率は82.8%あるにもかかわらず，「なぜそうなるのか理由をつけて話しています」の肯定的回答率は65.5%と下がってしまっている。

このことは，表現力のなかでも「具体例をあげ」「自分の意見や考え」を「順序よく話す」こと，「理由をつけて話す」ことが苦手であることを示している。

本単元「事実と意見」は，論理的な文章について，客観的事実をもとに自分の意見を表現することに適した教材である。二つの教材を比べることにより，比較の対象がはっきりし，具体例をあげて意見を述べやすいといえる。話す順序に関しては，言語技術を活用したい。この学習をきっかけに，論理的な思考力を伸ばし，読み取った内容を根拠をもとに説明できる能力を養いたい。

指導観について

二つの教材を比較するために、一つ一つの教材について、問題提起は何か、その答えとなっていることは何か、筆者の論の展開はどうなっているか、ワークシートを用い整理させる。そのことにより同じ点と異なる点をはっきりすることができる。さらに、考えた意見を述べさせることで、根拠となる事実をもとに自分の意見を表現しやすい環境を整える。

また、全体で発言することが苦手な生徒も多いので、ペアワークを取り入れ、自分の意見を説明する機会を与える。ペアワークで友達から自分の説明に対しての意見をもらうことにより、客観的な視点を与えたい。また、文章を読む際に、批判的・客観的に読むことの大切さに気付かせたい。

単元の目標

国語への関心・意欲 ・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識 ・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・イースター島の歴史や地球の未来との関連について関心をもって読んでいる。 ・二つの文章を積極的に比較しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの文章が分かりやすいと思うか、言語技術をもとに、読み取った共通点や差異点を活用し、根拠を明らかにして、分かりやすく記述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成に着目させ、段落の役割や論理の展開のしかたをとらえさせる。 ・事実や根拠を的確に読みとらせ、筆者の意見を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の効果的な使い方について理解を深めさせ、表現に役立たせる。

指導と評価の計画

(全6時間)

次	学習内容(時数)	評 価					評価方法
		関	書	読	言	評 価 規 準	
一・二	・「モアイは語る」の本文を通読し内容を読み取る。					・根拠となる事実、その事実が物語っていたもの、現在に投げかけている問題、全体の構成をとらえている。	観察 ワークシート
三	・「イースター島にはなぜ森林がないのか」を通読し内容を読み取る。					・根拠となる事実、その事実が物語っていたもの、現在に投げかけている問題、全体の構成をとらえている。	観察 ワークシート
四・五	・二つの教材を読み比べることによって、筆者の論の展開や結論の書かれ方の違いを見つけ、読みを深める。					・二つの教材の同じ点や異なる点を見つけている。 ・ペアになり、同じ点や異なる点を話し合い、読みを深めている。	観察 ワークシート
六(本時)	・二つの教材の違いを整理する。また自分はどちらの文章がいいと思うか考えて、記述する。					・二つの教材の同じ点や異なる点をワークシートに整理している。 ・自分はどちらの文章が分かりやすいと思うか、言語技術を活用し、整理した同じ点や異なる点をもとに理由を明確にして記述し、説明することができる。	観察 ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

二つの教材の同じ点と異なる点を整理し、「自分はどちらの説明文が分かりやすいと思うか」と「その理由」を考えて、書くことができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 本時の学習目標を確認する。			
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">ねらいの明確化</div> <p>二つの教材の同じ点を整理する。</p> <p>二つの教材の異なる点を整理する。</p>	<p>ねらい:二つの教材を比較し,分かりやすい理由を根拠をあげて説明することができる。</p> <p>前時までの復習で同じ点を整理させる。</p> <p>事実の異なる点を整理した後,受ける印象の違いを考えさせる。 意見を言うときには,理由を必ず考えて言わせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; text-align: center;"> 教 内容をしっかりとらえさせる。 </div>	
2 同じ点と異なる点を踏まえて、自分はどちらの文章が分かりやすいと思うか考える。			
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">個人思考</div> <p>同じ点と異なる点を踏まえて,自分はどちらの文章がわかりやすいと思うか,考える。</p>	<p>言語技術により,結論先行 理由の順で,意見を記述させる。</p> <p>理由を述べる際,共通点や異なる点を根拠にして書かせる。</p> <p>なぜ自分はそう思うか,しっかり考えさせ,「この部分からこう考えるからです」と根拠を明らかにして,自分の説明を加え,記述させる。</p>	<p>ワークシートの「型」にあてはめて,自分の言葉で説明を加えて書いている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; text-align: center;"> 考 自分はどちらが分かりやすいと思うか,じっくり考えさせて,記述させる。 </div>	<p>ワークシート</p>
3 交流し、発表する。			
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">集団思考</div> <p>発表する ペアワーク 全体</p>	<p>自分の意見を記述したものをペアになり,発表させる。 あなたの意見の「ここは,良かったと思います。」「ここは,納得できませんでした。もう少し説明をしてください」など,聞いた人は必ず意見を返すよう指導する。</p> <p>全体で確認させる。</p>	<p>自分はどちらの文章が分かりやすいと思うか,言語技術を活用し,整理した同じ点や異なる点をもとに理由を明確にして記述し,説明することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; text-align: center;"> 表 自分の意見を説明し,友達に意見を返させる。 </div>	<p>観察</p>
4 今日の学習を振り返る。			
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">評価・振り返り</div> <p>本時のねらいが達成できたか自己評価する。</p>	<p>ワークシートの自己評価欄に記述させる。</p>		

(3) 板書計画

本時の目標

二つの教材を比較し、分かりやすい理由を根拠をあげて説明することができる。

*ワークシートの掲示

「モアイは語る」と

「イースター島にはなぜ

森林がないのか」を

比較しようプリントを

拡大して掲示する。

文章にする順番

どちらが分かりやすいと思うか決める。

結論先行

決めた理由を書くときには、二つの文章を比較して書く。

発表の仕方

挨拶をする 「よろしくお願いします。」

主語を入れて、結論から話し、理由を言う。

友達から評価を聞く。

挨拶をする 「ありがとうございました。」

聞き方

挨拶する 「よろしくお願いします。」

相手の話をメモする。

友達の発表を評価する 具体的に話す。

挨拶をする 「ありがとうございました。」

検 証

検証の方法

尾道市中学生論文コンクールを活用し、様々な社会問題の資料を読み、意見文を書かせた。

資料は「2008年重大ニュース 時事問題に強くなる本(学習研究社)」を参考に、必要な資料は各自で集めさせた。

自分の意見を述べるために必要な資料を活用したり、説明を加えたりして、描写を工夫して書いたりするよう、指導した。また、記述の量も論文コンクールの規定である「400字詰め原稿用紙5枚分」を意識して書かせた。

検証結果

全ての生徒が、何らかの記述をしていたが、記述の量が満たない生徒もかなりいた。

内容は、資料をそのまま写した生徒がほとんどであった。自分の意見があっても、資料の内容とつながらない論文や、また、社会問題と自分の生活が全くつながらず、唐突に意見だけ書いてある論文もあった。

自分の意見、事実、事実と意見のつながり、まとめと構成がしっかりしており、それぞれの内容もしっかり書けている生徒も一つのクラスに数名いた。

分析・考察

全ての生徒が何らかの記述をしており、また、定期テストでも、無解答の生徒が減ってきていることから、「書くこと」に対して、抵抗感が少なくなっているのではないかと考えられる。

授業の中の、考えて記述する場面では、ほとんどの生徒が考えて自分の考えを書いており、「書くこと」に対して、苦手意識が減ってきているのではないかと考えられる。

課題としては、まず、「自分の意見をもたせること」が挙げられる。資料を読んでも、深く考えることができず、自分のこととしてとらえることができていない。感覚的に「こうだと思う」という意見はあっても、感覚で終わっており、より深く考えを深めることができていない。自分の意見が出発点であり、その意見を伝えるために、必要な情報に説明を加え、描写を工夫して書くことができる。そのためには、「内容を的確にとらえる」ということが大切である。資料の内容を的確にとらえることができていないから、自分の意見をもつことができず、描写を工夫して書くことができないのである。より深く自分のこととして内容をとらえることができ、説明を加えることができる。そのためには何度も読み返し、自分のものとして内容をとらえさせる指導が必要である。